Osaka University Knowledge Archive

Title	＜紹介＞蜂矢真郷著『国語重複語の語構成論的研究』
Author(s)	舘谷, 笑子
Citation	語文. 1999, 73, p. 54-54
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68957
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

紹　介

蜂矢真郷著『国語重複語の語構成論的研究』

舘谷笑子

日本語の語構成研究は、阪倉篤義氏の『語構成の研究』（角川書店昭和41・5）に始まると言えよう。蜂矢真郷先生の著書『国語重複語の語構成論的研究』は、その序文で濱田敦氏が述べられるように、阪倉氏以来ほとんど見られなかった本格的に語構成を扱った研究書として注目され、著者の師である阪倉氏の研究をさらに進展させたものと言える。

本書の構成は、第一篇「語構成と重複語」、第二篇「重複素と重複語」、第三篇「形状言の重複と重複語の諸形態」、第四篇「形状言・名詞・動詞連用形の重複」、第五篇「交替的重複語」、第六篇「重複と接尾」である。本書では、重複語とは「いわゆる畳語およびそれに類する形態のもの」を言い、「それに類する形態のもの」とは第三篇で挙げられる縮重複・一部重複・重複接尾を言う。工藤力男氏が指摘されるように（「国語学」第百九十七集　平成11・6）、本書では日本語の重複語を網羅し、十分な語の考証のもと、それらの全体的構造を語構成論的に論じている。

本書の中心となるのは第二～四篇で、第二篇では形状言・名詞・動詞の重複について重複素別に、第三篇では形状言の重複について縮重複・一部重複・重複接尾という形態の違いから、第四篇では重複形容詞・重複形容動詞・重複サ変動詞などについて検討される。まず第二篇では、名詞の重複は「モノの複数」であり「枚挙」・「総数」を表し、動詞の重複は「コトの複数」であり「反復」・「継続」を表し、「枚挙」と「反復」、「総数」と「継続」がそれぞれ対応すること、さらにこれらは形状言の重複が表す「情態」につながることを指摘される。著者はこの三者の重複を「複数」という統一的観点から捉えようとされる。第三篇では、重複素頭音節がア行を基本とする縮重複と、重複素末尾音節がラ行を基本とする一部重複、一音節語基の重複が接尾辞ラなどを伴った重複接尾の三様の形態的特徴に注目され、その後項重複素の独立度を図式化して示される。さらに前項重複素と後項重複素との非対等性、後項重複素と接尾辞ラなどとの連続性を指摘される。

第五・六篇では今後の展開の方向が示唆されており、第五篇では重複語に隣接する交替的重複語、中でも情態副詞について、第六篇では二音節語基が接尾辞ラなどを伴うものについて検討される。特に重複することと接尾辞ラなどを伴うこととの連続性、さらに重複語と接尾辞を伴う派生語とを統一的に捉える可能性の提示は、重複語が「複合語として最も単純な構成で、語構成を考える上での出発点となり得る」という著者の考えを裏付ける。

本書によって、日本語の語構成研究の新たな方向性が示されたと言える。その重要性は平成十年度第十七回新村出賞を受賞されたことからも窺えよう。（平成十年四月十五日発行、塙書房、四五〇頁、本体価格九八〇〇円）

――本学大学院博士後期課程――